



「青い海と森の音楽祭」特別顧問（こもん）。1968年、東京都生主
れ。90年、22歳から東京都文藝団のソロ・コンサートマスターを務める。故（二）朝比
奈、故小澤征爾ら著名指揮者と共に演（ぎょうえん）。94年度第5回出光音楽賞（しょう）、
96年度村松賞、96年第1回ホテルオーラ音楽賞受賞（やべ・たつや）。



弾く矢部さん(左)=2023年5月、東京都

家の代弁者。何百年も前に作られた曲が今も残っているんですから、作曲家は偉大です。その作曲家が曲に込めた心の動きを解釈して表現し、皆さんに伝えるのが僕たちの仕事。メンバーみんなで真剣に届けるからこそ、初めて生まれる楽しさがそこにあるはずです。

これまでの全て 青森に

音楽を続けてきて良かつた。昨年6月、弘前で開いたコンサートでそう感じました。5歳からバイオリンを始めて、東京都交響楽団でコンサートマスターを務めて来年で35年。こんな気持ちになれたのはこの時が初めてです。



音符
③

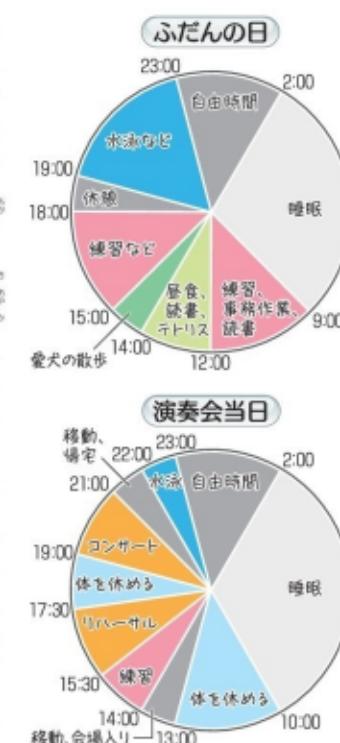
バイオリン
矢部 達哉さん(東京都出身)

たいことを誰よりも早く察知して演奏者に伝えます。学校で例えると、指揮者は先生、僕は学級委員、オーケストラはクラスのみんな。僕はクラスを代表して怒られたり、先生や生徒の気持ちを代弁したりするのが仕事です。

だから、コンサートマスターって本当に大変。コンサートが終わったらまた次の演奏に向けて曲の勉強に練習…。やらないといけないことが果てしなく続く。ずっと自分との闘いで、正直、投げ出したくなる時もありました。

それが、コロナ禍になつて時間がぽっかり空いて。

「音楽は人々に幸せや潤いをもたらすもの」。それを考えながら演奏したのが、昨年の弘前でのコンサートです。お客さんの温かくて大きな拍手、マスクをしながらも分かる子どもたちのキラキラ笑顔。演奏と眞剣に向き合ったからこそ、お客さんの反応がうれしかった。音楽を続けてきて良かったです。音楽に癒やされて、音楽に心が動かされました。そこで何とか家でオペラを聴いたら、「幸せ」と感じられたんです。音楽に癒やされて、音楽に心が動かされました。



Juni
ジュニ
Juni
ジュニ
東奥小中学生新聞

楽器を知ろう

バイオリン

バイオリンは美しい音色を持つ弦楽器の一つです。弦楽器の中では多くの場面で目にすることがあるのではないでしょうか。4本の弦があり、左手で弦を押さえ、右手で弓を使って音を出します。弦を押さえる位置によって音の高さが変わり、弓の使い方やスピードで音の強さや表現力が変わり、まるで歌うかのようにメロディーを奏することができます。

バイオリンはクラシック音楽で演奏されることが多い、オーケストラでは重要な役割を果たしています。大人数のオーケストラ奏者のリーダー的存在である「コンサートマスター」は、「第2の指揮者」とも言われ、通常は最前列で客席に最も近い位置にいるバイオリン奏者が務めます。

また、時にはソロで華やかな演奏を披露することもあります。バイオリン協奏曲（コンチェルト）やバイオリンソナタ（バイオリンを独奏楽器とした小編成の楽曲）が多くの作曲家により発表されています。

さらに、クラシック音楽だけではなくポップスや映画音楽にも使われ、その多様な音色で多くの人々に愛されています。

バイオリンの演奏技術を習得するには熟練と根気が必要です。最初は弦を正確に押さえるのが難しかったり、弓の動かし方に慣れるのに時間がかかるかもしれませんが、練習を重ねることで上達し、やがて自分の思い通りに音楽を表現できるようになり、音楽の楽しさがさらに広がります。

(目次表記用語明瞭化)

2025年6月30日～7月6日 県内で第1回「青い海と森の音楽祭」が開かれます